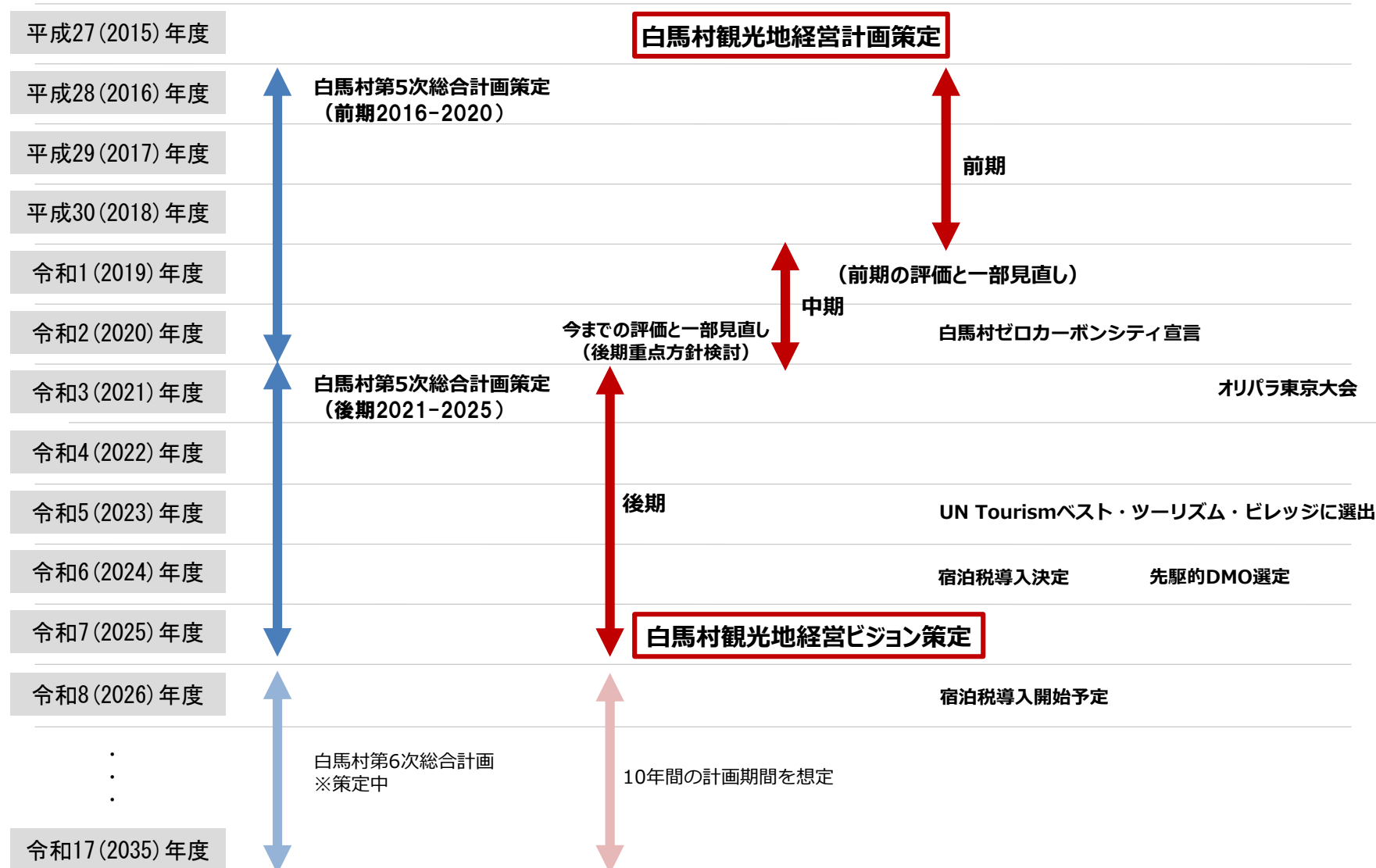


資料2

観光地経営ビジョン策定について

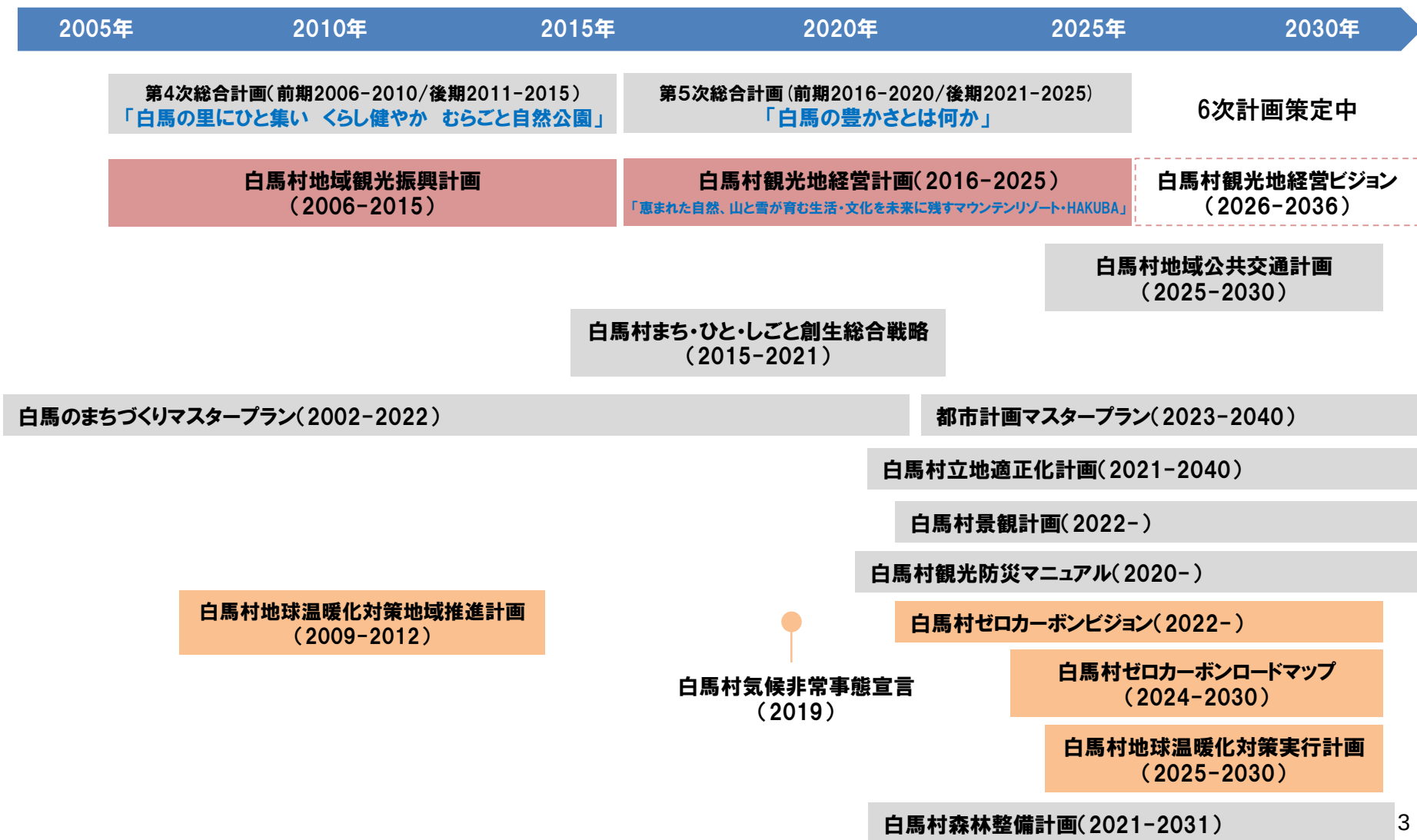
白馬村観光地経営ビジョンの位置づけ・期間

- ✓ 現計画は、前期・中期・後期に分けて評価・見直しを実施
- ✓ 今回策定する白馬村観光地経営ビジョンは、計画期間としては、2026年度～2035年度の10年間を想定
- ✓ 上位計画である総合計画は第6次の計画を策定中（計画期間は白馬村観光地経営ビジョンと同様に10年間）



白馬村の関連計画

- ✓ 交通、都市計画、景観、防災等各分野において計画が作成されている。
- ✓ 環境対策関連の計画は2022年～2025年頃に相次いで作成され、うち2件は2030年までを期限としている。



白馬村観光地経営ビジョン・白馬村観光地経営会議の位置づけと全体方針

○白馬村観光地経営ビジョン・白馬村観光地経営会議の位置づけ（白馬村持続可能な観光地経営に関する条例第9,10条）

- ✓ 条例に基づき、「白馬村観光地経営計画」から「白馬村観光地経営ビジョン」に名称を変更
- ✓ 「白馬村観光地経営会議」は経営ビジョンの策定や進捗管理、宿泊税の使途を審議する主体として格上げ（「白馬村持続可能な観光地経営に関する条例」に基づく）

○白馬村観光地経営ビジョン策定にあたっての全体方針

- ✓ 計画期間は10年（ただし現計画と同じく期間を区切りながら定期的にモニタリングし、必要に応じて改訂）
- ✓ ビジョンには、**理念・目標像、基本方針、戦略（※細かい施策は記載しない）、KPI、管理体制等**を書き込む
 - ・ ビジョンは、持続可能な観光地経営の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るためのものである（第9条）ことに留意して、策定する必要がある。
 - ・ 白馬村観光地経営ビジョンを推進するための事業に要する財源として宿泊税が課される（第11条）
→本経営ビジョンの内容は、第12条「宿泊税の使途は、（省略）経営ビジョンに定める経営戦略の範囲内の事業とし、（省略）」に留意して、策定する必要がある。

白馬村持続可能な観光地経営に関する条例（一部抜粋）

第9条（白馬村観光地経営ビジョン）

1. 村長は、持続可能な観光地経営の実現に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、白馬村観光地経営ビジョン（以下「経営ビジョン」という。）を定めるものとする。
2. 経営ビジョンは、持続可能な観光地経営に関し、次に掲げる事項を定めるものとする。
 - （1）施策についての**基本的方針**
 - （2）村が総合的かつ計画的に講ずるべき**施策と目標**
 - （3）前各号に掲げるもののほか、**施策を推進するために必要な事項**
3. 村長は、経営ビジョンを定めたときは、遅滞なくこれを公表するものとする。
4. 前項の規定は、経営ビジョンの変更について準用する。

第10条（白馬村観光地経営会議）

1. 村長は、経営ビジョンの策定や進捗管理、宿泊税の使途を審議するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、**白馬村観光地経営会議**（以下「経営会議」という。）を置く。
2. 前項に規定するもののほか、経営会議については、別に条例で定める。

第11条（財源の確保）

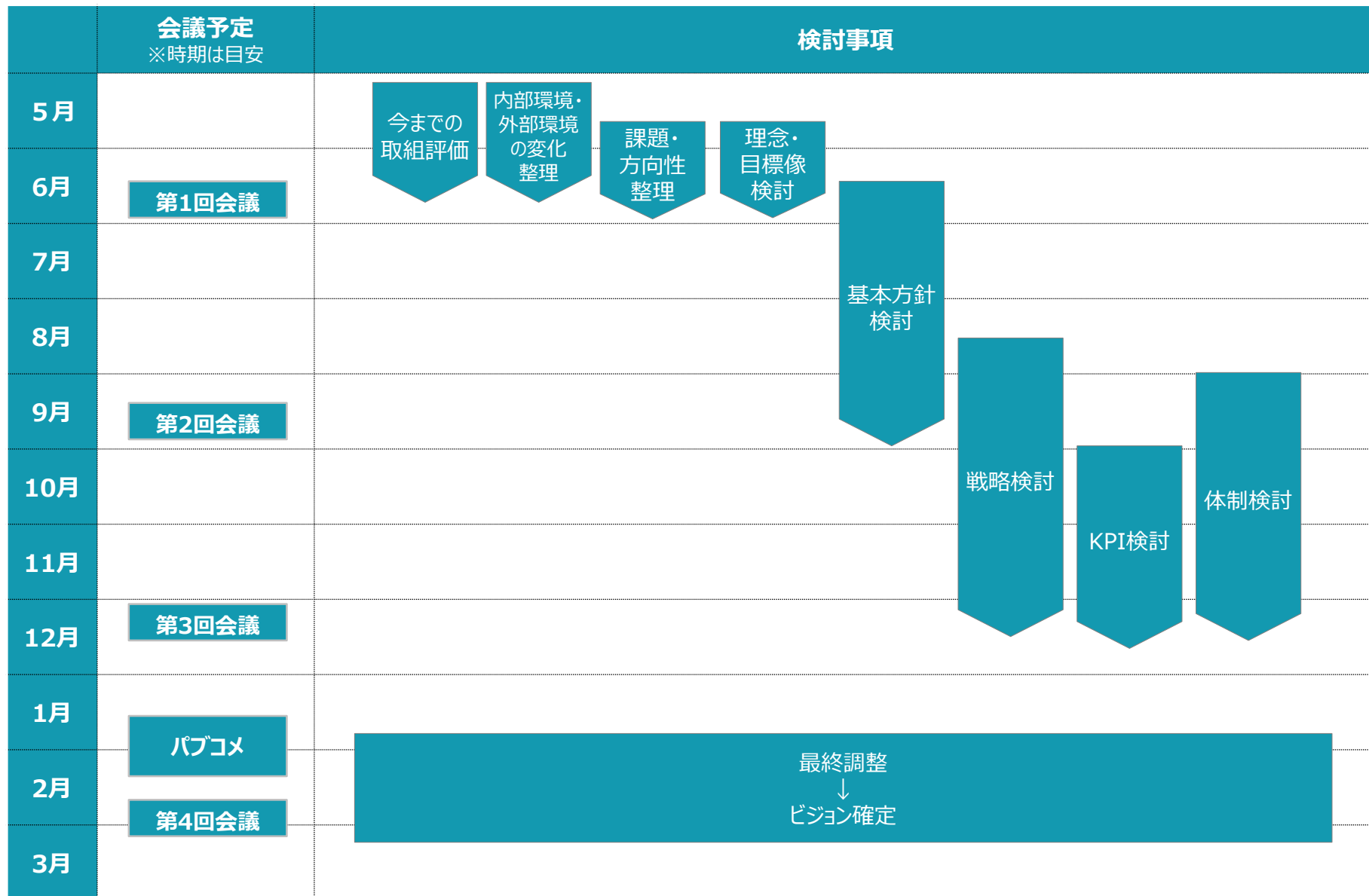
1. 村長は、経営ビジョンに定める事項を推進するための事業に要する費用に充てるため、地方税法（昭和25年法律第226号）第5条第7項の規定に基づき、**宿泊税**を課する。
2. 前項に規定するもののほか、宿泊税については、別に条例で定める。

第12条（宿泊税使途の基本方針）

1. 前条に定める**宿泊税の使途**は、第3条の基本理念に則り、**経営ビジョンに定める経営戦略の範囲内の事業**とし、次の各号に掲げる事項について事業を実施するものとする。
 - （1）**来訪者の利便性及び満足度向上**に資する事業
 - （2）来訪者が訪れることで生じる**自然環境や住民生活への負荷を抑えるための事業**
 - （3）**課題抽出及び事業の評価指標の設定並びに効果検証に必要な調査及び計画に関する事業**
 - （4）**観光リスクマネジメントに関する事業**

ビジョン策定のスケジュール

- ✓ 2025年度を通じて、次期白馬村観光地経営ビジョンを作成する。
- ✓ なお、会議の具体的な時期や検討事項は、状況に応じて変更となる可能性がある。



ビジョンの理念・目標像

- ✓ 白馬村観光地経営ビジョンの理念・目標像は今回新たに作成するものの、作成にあたっての考え方は現計画のものを引き継ぐこととする。

○ 現計画策定時の考え方

白馬連峰の圧倒的な資源性(雪・豊かな自然等)は変わらないものの、白馬観光を取り巻く環境の急速な変化を踏まえ、「観光地経営」の視点を取り入れながら今後の白馬観光の指針となる計画を策定。



➡ 白馬村観光地経営ビジョン策定にあたっても同様に、白馬の圧倒的な資源性を重視し、それを未来に残すために、白馬観光を取り巻く環境の急速な変化を踏まえ、「観光地経営」の視点(財源の活用も含む)を取り入れながら、今後の白馬観光の指針となる計画を策定する。

○【参考】現計画の理念・目標像

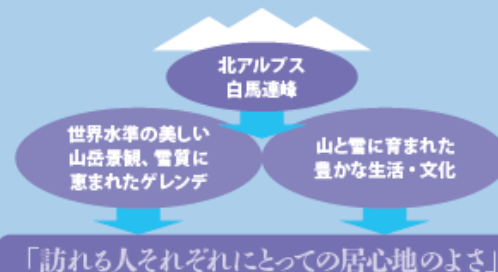
✓ 理念

- 観光の手段によって地域を活性化し、自分たちの生活の場として次世代に自信を持って引き継ぐことのできる白馬村を実現します。
- 観光の視点で地域の魅力をさらに磨き上げ、高い誇りを持って世界中からの来訪者を迎えることのできる白馬村を実現します。

- 旅行者にとって『何度でも訪れたい／ここに留まりたい白馬村』、生活者にとって『ずっと住み続けたい白馬村』、村外に転出した次世代の若者も『いつか帰りたい白馬村』を目指します。
- オリンピック開催経験を有する白馬村として村民がそれぞれの立場で「世界水準」を意識して来訪者を受け入れます。

✓ 目標像

恵まれた自然、
山と雪が育む生活・文化を未来に残す
マウンテンリゾート・Hakuba



後期計画検討時には、「世界水準」の具現化について議論

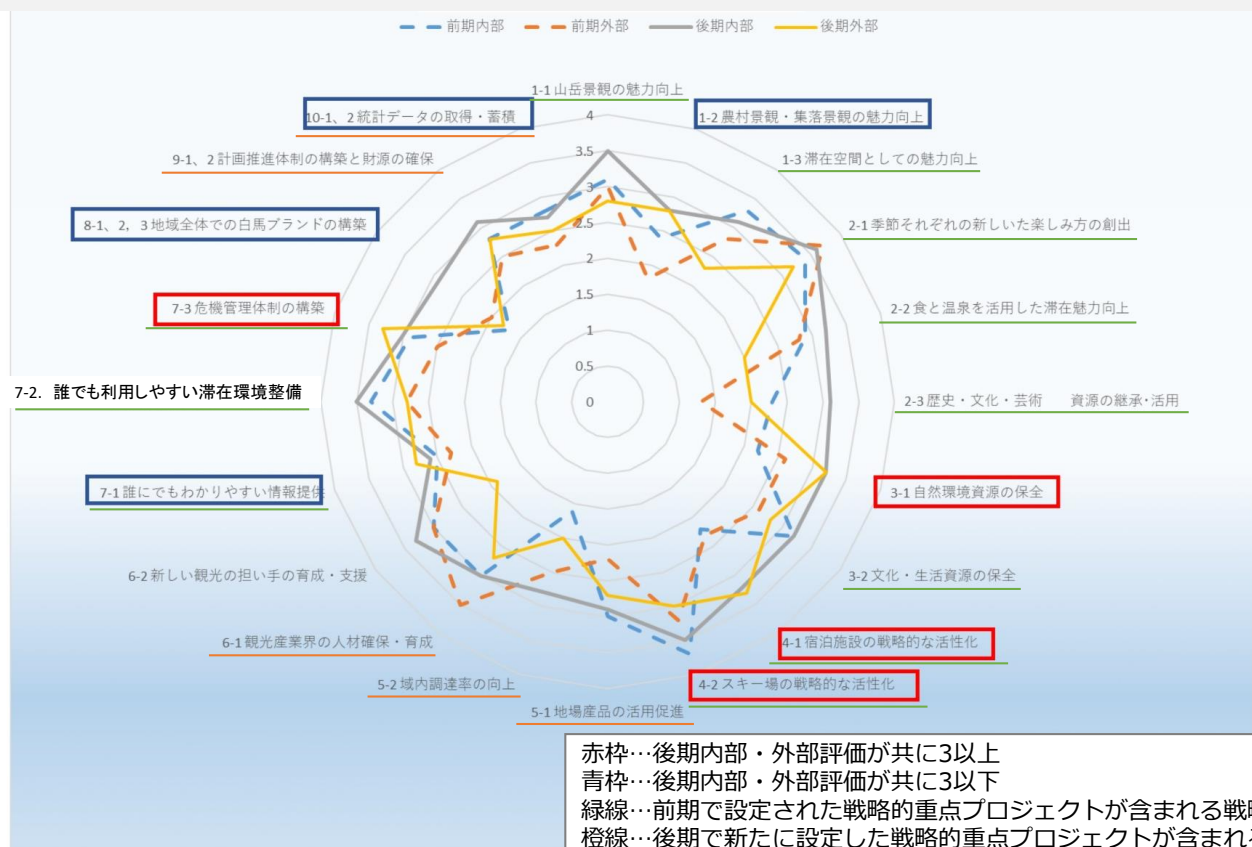
後期の目標像：「世界水準」のオールシーズン型マウンテンリゾート・Hakubaの具現化

次期計画を検討するにあたっての課題・視点

○ 課題・視点

- ✓ 現計画の戦略のうち、「誰にでもわかりやすい情報提供」「統計データの取得・蓄積」「地域全体での白馬ブランドの構築」等は特に課題が残った。また評価が低かった項目のみならず、高かった項目においても課題は残っており、引き続き検討が必要。

- ✓ 2019年度に前期評価、2024年度に後期評価を、戦略に基づく施策レベルで実施した。
- ✓ 「自然環境資源の保全」「宿泊施設の戦略的な活性化」「スキー場の戦略的な活性化」「危機管理体制の構築」等で一定の成果をあげることができた一方、「農村景観・集落景観の魅力向上」「誰にでもわかりやすい情報提供」「地域全体での白馬ブランドの構築」「統計データの取得・蓄積」等は比較的评价が低かった。
- ✓ 特に「誰にでもわかりやすい情報提供」「統計データの取得・蓄積」は、戦略的重点プロジェクトに設定されているにもかかわらず評価が低いという結果になった。また、「地域全体での白馬ブランドの構築」は、後期外部評価が2以下と、後期評価の中で最も低かった。



次期計画を検討するにあたっての課題・視点

○ 課題・視点

- ✓ 現計画の施策のうち、特に「誰にでもわかりやすい情報提供」「統計データの取得・蓄積」「地域全体での白馬ブランドの構築」、等の項目は課題が多いと言える。
- ✓ 内部環境・外部環境の変化を踏まえて次期10年に必要な施策を検討する必要がある。

<参考> 内部環境・外部環境の変化を踏まえたSWOT分析

	プラス要因	マイナス要因
内部環境	強み(Strength) ・豊かな自然環境(緑、雪) ・堅調な冬季の観光と高いリピート率 ・スキー以外を目的とする観光客増加 ・環境への配慮(ゼロカーボンロードマップ) ・宿泊税導入による財源増加 ・先駆的DMO選定(国の財源も活用した戦略的な施策) ・ベストツーリズムビレッジ選出によるブランドイメージ強化・認知度向上への期待	弱み(Weakness) ・低迷する消費単価 ・観光客の増加による移動・飲食等のキャパシティ不足 ・一部エリアの混雑 ・宿泊施設の事業承継に関する課題 ・人口減少と人手不足(2030年問題) ・夏と冬の繁閑差 ・観光による地元住民の生活・環境等への影響
外部環境	機会(Opportunities) ・サステナブルへの意識の世界的な高まり (※2030年は「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の期限年) ・DXの進化 ・ライドシェアの解禁 ・地域の伝統・文化、自然等を重視する高付加価値旅行者層への着目の国内外における高まり	脅威(Threats) ・政治不安、国際情勢不安 ・人口減少による国内旅行市場の縮小 ・観光関連エリア(別荘地・商業地)の地価高騰 ・開発の進展による自然破壊のリスク ・気候変動によるスノーシーズン・自然への影響 ・自然災害等のリスク

本日の議題

① 白馬村が抱える課題について(課題の整理)

- ✓ 白馬の資源性は、現計画策定から10年経った現在も健在。ただ、それが大きく**脅かされている**状況にある。
→ **課題として、追加すべきものはあるか**
ビジョン策定にあたって特に留意すべき課題はどれか

② 白馬村観光地経営ビジョンの理念・目標像について(理念・目標像の検討)

- ✓ **白馬の圧倒的な資源性を重視し、それを未来に残すために、白馬村観光を取り巻く環境の急速な変化を踏まえ、「観光地経営」の視点を取り入れながら、理念・目標像を検討する。**
- ✓ **理念・目標像の検討にあたっては、観光そのもののみに着目するのではなく、地域資源、環境、住民生活等、周辺分野についても意識する必要がある。**
- ✓ **【検討の際の観点1】白馬村として将来に持続させていきたいものは何か**
白馬村において必要な「持続可能性」の要素とは何か
 - ・ 経済・環境・社会
 - ・ 自然環境 土地・開発 人材 財源 災害 文化 生活 …etc.
- ✓ **【検討の際の観点2】白馬村において実現したい地域の在り方・方向性は何か**
 - ・ 誰/何(住民、観光客、自然環境…etc.)にとっての地域の在り方・方向性をビジョン・目標像に記載するか
 - ・ 住民が望む将来の白馬村のイメージは「恵まれた自然環境を大切にする村」「医療・福祉・教育が充実して、誰もが暮らしやすい住み心地のよい村」(参考資料2 p20)
 - ・ 参考:海外スノーリゾートの理念・目標像(参考資料2 p40～)
レヰヒ…ゲスト、住民、従業員、パートナーのすべてに、あらゆる場面とレベルでプライベートな贅沢な瞬間を提供する
オーバーヴィーゼンタール…オーバーヴィーゼンタールは、未来ある暮らしと観光の場である
アスペン…アスペンは、地域全体での取り組みによって気候変動対策を主導する世界的なリーダーである。
ベイル…ベイルは、持続可能なマウンテンリゾート・コミュニティの最先端となる。
ウィスラー…ウィスラーは、世界最高の通年型マウンテンリゾート・コミュニティとなる